

新出版ネットワーク(出版VAN) FAQ

<ご加入をご検討の皆さま>

★ 新出版ネットワーク(出版VAN)って何?

出版VANとは「新出版ネットワーク」の通称です。

出版社と取次会社間で書誌情報、受発注データ、返品データなどを電子データで送受信するシステムです。

ご利用には回線会社の富士通JAPAN(株)と契約が必要です。

★ 出版VANの加入社数は?

出版社・倉庫会社の約800社が加入しています。

利用出版社数では出版社全体の約2割ですが、出版VAN利用社の送品が取次全体の送品の約9割を占めています。

★ 出版VANで送受信できるデータ内容は?

現在、送受信できるデータ項目は下記のとおりです。

- 1 在庫情報 (出版社→取次)
- 2 在庫ステータス付加情報 (出版社→取次)
- 3 発注情報 (取次→出版社)
- 4 出荷情報 (出版社→取次)
- 5 一覧表注文納品情報 (出版社→取次)
- 6 出版社直受注情報 (出版社→取次)
- 7 書店情報 (取次→出版社)
- 8 書誌情報 (出版社→取次)
- 9 定価改定情報 (出版社→取次)
- 10 納品書情報 (出版社→取次)
- 11 返品情報 (取次→出版社)
- 12 発注照会情報 (出版社→取次)

★ 出版VANのメリットは?

・納期短縮の実現

データでの受発注を利用しない場合、取次会社では商品搬入時に短冊や注文書のデータ化工程が必要となります。

利用した場合、連携されたデータで書店への即時仕分が可能となり、約3営業日の納期短縮が図れます。

・販売機会の拡大

VAN連携による商品ごとの在庫情報が一目瞭然となり、取次、書店側の発注判断が容易となります。

販売機会のUPにつながります。

・物流精度の向上

短冊が破れてデータ入力ができない、注文書の汚れやFAXのかすれ等により、商品名、冊数が読み取れないという

物流現場のトラブルが解消されます。データ連携による情報精度の向上が、物流の品質向上にもつながります。

新出版ネットワーク(出版VAN) FAQ

★ 出版VANを開始するには？

<開始へのステップ>

①「富士通Japan(株)」との利用契約

新出版ネットワーク（または出版VAN)利用にあたっては回線会社(富士通Japan(株))との利用契約が必要です。月額基本料に加えて月間データ量に応じた単価で利用料がかかります。詳細につきましては下記へご相談ください。

富士通Japan 新出版ネットワーク担当

【e-mail】 fjj-shuppan-info-external@ml.jp.fujitsu.com

※メール本文に必ずご連絡先情報をご記入ください。

②「取次会社 出版VAN窓口」への連絡

どの項目をどのような仕様でやり取りするのかについて取次会社個々に打合せが必要です。取次会社により一部仕様が異なります。データ送受信の全体的なスケジュールについても打ち合わせが必要です。

③「取次会社」とテスト運用の実施

出版社は商品の在庫ステータス情報を取次会社へ提供し、取次会社は商品マスタ照合作業を行います。その後、取次会社にてテストデータを作成し、出版社に受信していただき一連の流れに支障がないかテストします。テストに問題が無ければ本番開始となります。

★ 在庫ステータス(在庫ST)とは？

銘柄個々の在庫状況を表現したコード番号です。

出版社から取次会社へ出版社側の在庫情報を提供することにより、取次会社⇔出版社の受発注、書店⇔取次会社の受発注がスムーズに行えます。

在庫STコード一覧

在庫 ステータス コード	内容	
	項目	意味付け
11	在庫あり	出庫可能。
12	出庫部数調整中	出庫可能だが、部数は調整する可能性あり。
21	在庫僅少	在庫少なく、出庫調整中。出庫できない場合あり。
22	重版中	重版出来次第出庫。出来予定日も表示。部数は調整する可能性あり。
23	未刊・予約受付中	刊行前だが予約注文を受け付ける。
24	品切・予約受付中	在庫なし。重版検討・返品改装待ち。注文は受け付けるが、部数は調整する可能性あり。
29	その他	
31	未刊	刊行前につき注文は受け付けない。
32	品切	在庫なし。重版中でもない。原則として注文は受け付けない。
33	品切重版未定	絶版と同義語。絶版表現を希望しなし出版社が使用。
34	絶版	
35	専売品	取次ルート取り扱いなし。特定回体・個人向け専用。
36	通販品	取次ルート取り扱いなし。通販専用。
39	その他	

新出版ネットワーク(出版VAN) FAQ

<ご加入社の皆さま>

★ 在庫ステータスの使途と取次会社からの提供先を教えてください

取次会社から出版社への発注判断や独自システム内での該当商品の調達可能性判断に使用しています。
在庫ステータスは販売会社内のシステム、社外向けシステム(TONETS、e-hon、NOCS等)で利用するだけでなく、
取引書店(ネット書店を含む)にも要望に応じて、取次会社から更新データを配信しています。

★ 定価改定情報はどのように使用されていますか？ ネット書店の定価表示も変更されますか？

出版社がVAN送信した定価改定の情報は、VANフォーマット上の「価格改定日」にあわせて商品マスタを更新し、
提供社(書店等)にはその翌日に送信されます。
ネット書店にも情報発信されますが、その後の変更対応は書店側のオペレーション次第となります。

★ 送信した在庫ステータスが取次・書店発注に反映される日数を教えてください

出版社や情報の種類により異なりますが、基本的に取次会社は1日1回の日次更新を夜間に行い、
翌日の朝、反映されます。(土日祝日は除く)

★ 急な品切れを告知したい場合、受ける側での逐次更新は可能ですか？

在庫ステータスは日次更新です。夜間バッチで最新情報が取り込まれます。個々のデータについて緊急性の判断はできず、
即時更新はできません。

★ 在庫ステータス32(品切)でも注文データが飛んでくるのはどうしてですか？

取次会社と出版社との間で予め決めた設定で運用しています。
取次会社側でどのくらい受注が保留されているかを把握されたい出版社へは、出版社在庫が品切れ状態のステータスで
あっても、発注データを送信している場合があります。
設定変更は、取次会社へご連絡ください。

★ ステータス送信を1日に複数回した場合、取次会社に取り込むSTはどのようになりますか？

基本的に取次会社は1日1回の日次更新を夜間に行っています。(土日祝日は除く)
仮に2回送信した場合は後(2回目)の情報を取得します。

TONETS i のご利用出版社は、銘柄一覧画面から自社銘柄を全件ダウンロードすれば項目中の在庫ステータスで
確認が可能です。(単品実績画面上でも可能です。)

新出版ネットワーク(出版VAN) FAQ

★ 在庫ステータスの運用に悩んでいます。出版社の事例を教えてください。

＜A社の場合＞

一定期間の受注数とそれに対する出庫数を基に品切基準数を計算し、現在庫が基準数を上回ればステータス11(在庫あり)を付与します。

ステータス12(出庫部数調整中)、ステータス21(在庫僅少)は新刊・準新刊などで出庫調整を必要とするケースで任意に立てることが多いです。

＜B社の場合＞

商品ジャンル、刊行時期(近刊かそうでないか)ごとに最低在庫必要数を設定し、下記で運用しています。

[現在庫>設定数] → ステータス11

[現在庫<設定数] → ステータス12または21

＜C社の場合＞

ステータス21に更に社内ローカルルールによるハウスコードを3種類付与して運用することで細かい対応をしています。

- ◆ 在庫ステータス11にした銘柄は受注に対する満数出庫とするのが原則です。
受注があったのに出庫できないといった事故を無くす運用をお願いいたします。

★ 注文データがどちらの書店からのものか把握できますか？

在庫ステータス付加情報データには「注文形態」区分があり、「注文形態 = 受注単位」でデータを取得している場合は、「書店コード」で判別が可能です。

但し、データの負荷がかかるため、出版点数を多く抱えている出版社は銘柄単位のみで取得している社がほとんどです。

★ 取次会社様と出版社が運用の摺り合わせを行うことで物流が効率化される可能性はありますか？

可能性はあります。

例えば、在庫ステータスの開示のみの出版社の場合、受発注までを含めた利用に変更することにより、取次会社は搬入商品のソーター処理(機械による書店別仕分け)が可能になり、商品の書店着を早めることができます。